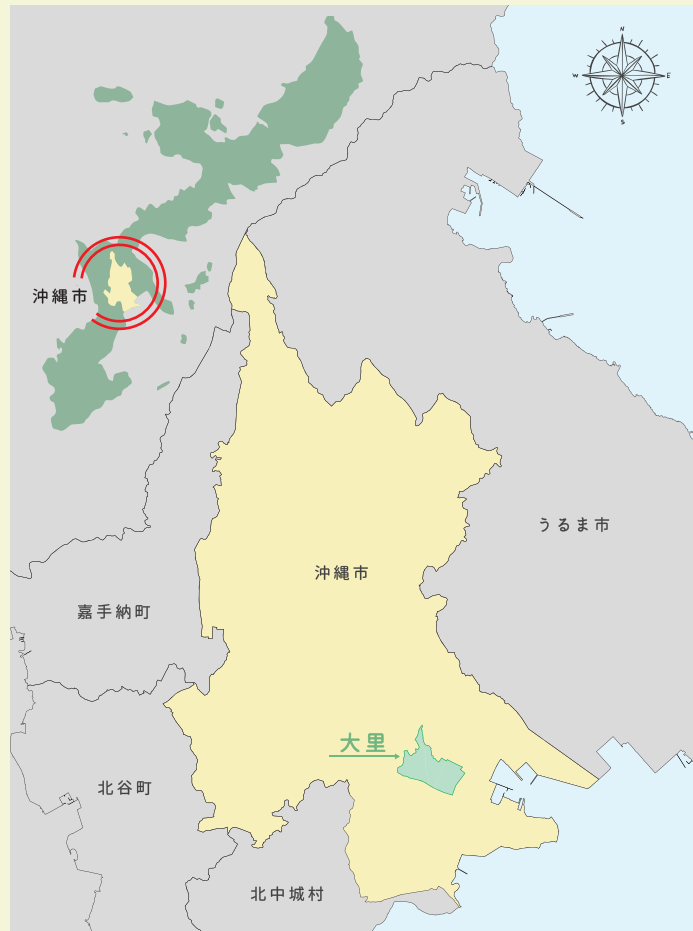
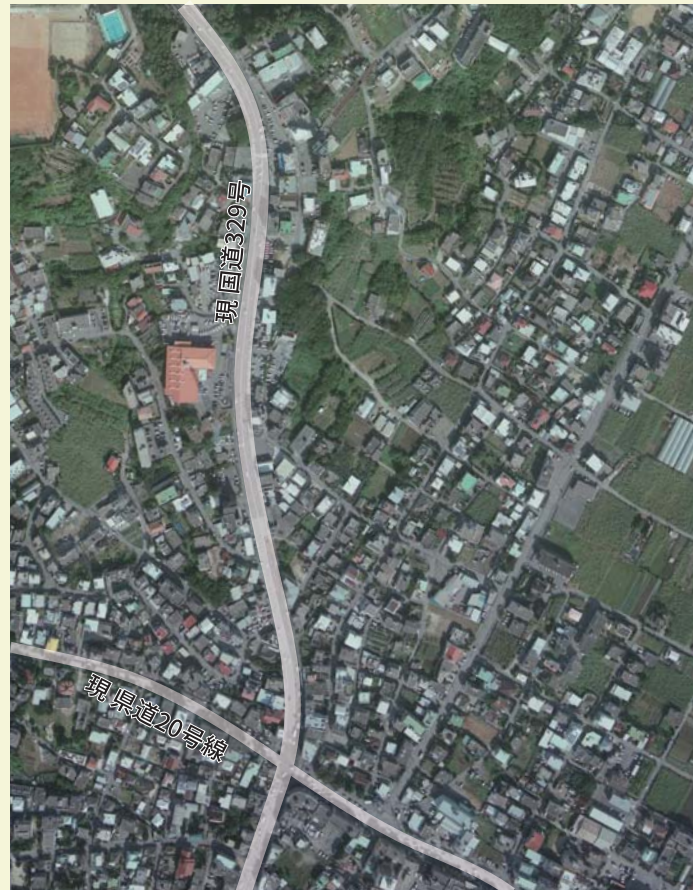


## 大里の位置



## 2010年の大里集落の様子



出典：国土地理院ウェブサイト

## 沖縄市文化財マップ 大里地区

平成29年度発行  
 発行：沖縄市教育委員会 沖縄市立郷土博物館  
 〒904-0031  
 沖縄県沖縄市上地 2-19-6 沖縄市文化センター 3階  
 TEL：098-932-6882  
 FAX：098-933-6218

## 大里地区



# 沖縄市文化財マップ



## 大里集落について

大里は方言でウフザトゥといいます。17世紀中期の歴史資料『琉球国高究帳』に「大里村」が記載されています。集落の発祥は、南城市大里の按司(領主)の娘を嫁にとったのが始まりとする伝承もあり、名称も南城市大里に由来するといわれています。

かつての大里の集落は現在の集落の北西側の丘陵斜面のエーヤマと呼ばれる場所にあったそうですが、地盤が弱く地すべりに悩まされ、農地も遠かったため現在の場所に移動したと伝わっています。エーヤマはグスク時代(12世紀～16世紀頃)の遺跡でもあります。

大里は古くから稲作が行われており、田んぼが広がっていましたが、徐々にサトウキビ栽培に移行していきました。

沖縄戦後、米軍泡瀬飛行場建設計画のため、隣接する桃原とともに現在のうるま市字前原幸崎原に強制移住させられましたが、計画が中止され大里に戻りました。集落の拝所等の場所は戦災や戦後の開発により、壊されてしまったものもありました。しかし、自治会を中心に拝所や井戸などを掘りあて、祠を再建するなど、復元に努めました。大里は、稲作に関する行事のウマチーやアブシバレー、綱引きが現在でも継承されています。

## 1945年の大里集落の様子



出典：沖縄県公文書館所蔵『米軍撮影空中写真 ON24146 019-2』より

**1 トウンチナー（殿内庭）**  
 集落の火の神が祀られている拝所です。この場所では、旧暦3月、5月、6月のウマチー行事（農作の祈願）、旧暦6月25日の綱引き、旧暦9月9日の菊酒（健康祈願）が行われます。

**2 ウサチガー（御先井）**  
 大里に最初に住んだ人々が使っていたとされる井戸です。戦前は現在の国道329号内にありましたが、道路建設に伴い現在の場所に移されました。現在でも、カーウガミ（井戸拝み）などの集落の行事で捧まれています。

**3 エーガー（ウフガー）**  
 ヌンミジガーよりも古くからあるとされている井戸です。干ばつの時には周辺の集落からも水をくみにきたという伝承が残されています。

**4 ヌンミジガー（飲水井）／ミカツキガー**  
 大干ばつの際に、エーガーだけでは集落の生活用水が足りなくなり作られた井戸です。現在でも、正月にはここで若水（元旦に初めてくむ水）をくみ、集落の行事でも捧まれています。

**5 タキグサイ**  
 戦前はエーヤマの頂上にあり、香炉が置かれていました。海外へ移住した人の健康祈願も行われた拝所です。

**6 カンジャーガー**  
 この地で鍛冶屋（カンジャーヤー）を始めた人が使っていた井戸と言われています。

**7 ジトゥーヒヌカン（地頭火之神）**  
 ジトゥーヒヌカン（地頭火之神）と、カミジー（神の土地）が安置されています。現在でも旧暦7月17日の獅子舞に捧みが行われています。

**8 アシビナー**  
 敷地内にジトゥーヒヌカン（地頭火之神）が安置されています。この場所では、旧暦7月17日に獅子舞が行われています。

**9 エーヤマ**  
 大里の6つの拝所がある聖地です。かつての大里の集落はこの周辺にあったと言われており、旧暦4月15日のアブシバレー（虫払い）では山全体を捧んでいます。また、グスク時代（12世紀～16世紀頃）の遺跡でもあります。



**10 ソーリーガー**  
 大里で人が亡くなった際に、死者を清めるために使う水をくむ場所でした。それ以外の用途では使われなかったと言われています。

**11 ヌールガー**  
 ノロと呼ばれる神人が使っていたと伝承されています。また、この井戸は諸見里からきた住込人（イリチリー）が利用し成功をおさめたため、別名ムルンザトガー（諸見里井戸）とも呼ばれるようになったと言われています。

**12 カーウリガー**  
 出産時の汚れた衣服や布を海で洗った後に、仕上げをするために使われていました。

**13 ウガングームイ（御願小森）**  
 竜宮神を祀っていると言われていた拝所です。戦前のウガングームイの近くには、美東尋常高等小学校やアマ城毛がありました。鬼大城が百十路揚を連れて首里に行く際に隠れた場所との伝承も残っています。

**14 大里のウプガー（ナージキガー）**  
 子どもが生まれた時に用いる水をくむ場所でした。また、産後のナージキ（名づけ）でも使われたため、ナージキガーとも呼ばれています。

**15 アガリバー（東）のヒーゲシー**  
 このくぼみは、防火用水のクムイ（溜池）として使われたことから、ヒーゲシー（火を返す）と呼ばれています。現在でも、旧暦4月15日のアブシバレー（虫払い）で捧まれています。

**16 アガリガー**  
 各門中がアガリウマーイ（聖地巡拝）に行く前に捧む井戸と言われています。現在の井戸は、戦後埋まっていたものを掘り当てて復元したもので、井戸の前にあるニービ（砂岩）は戦前からあったと言われています。

**17 イリバーの神道**  
 集落から聖地であるエーヤマに登る神道で、集落内の2つある神道のうちの1つです。ウスクウガンジュからカンジャーガーの側まで伸びています。

